

横浜善光寺留学僧育英会への御礼

第二十四回生 樋口 星覚

平成二十三年春に当地へ渡ってから早いもので六年が経とうとしています。皆様のおかげで今、ここにある、このことへの感謝をどのように表現すればよいでしょう。

大本山永平寺に安居中、「横浜善光寺留学僧募集要項」を初めて拝見してから十年以上。その頃は将来自分がベルリンで毎日坐禅をしているとは夢にも思っておりませんでした。しかし大変有り難く、そして大変不思議なご縁で、日本の空のはるかに遠く、現在欧州はドイツの地でキーボードを叩いています。

渡独直後はホームステイをさせて頂いた家族の部屋の片隅で。次に運良く借りられることになったエレベーター無しアパート五階のリノリウムに畳をしいて、さらには興味を持って坐りに来てくれていた近所のマテ茶カフェのオーナーのお店で、今はそのカフェに来てくれていたフェルデンクライスメソッド（イスラエル発の身体技法）の先生のヨガスタジオで、毎朝坐禅

を続けています。

最近では定期的に坐禅に来て下さる方、禅を求めて日本へ旅する方、日本からベルリンに来て坐禅をしていく方、少しずつですが、様々な形で仏教に興味をもって下さる方の輪が広がっているようです。

特別なことはしていません。この六年間、朝早く起き、トイレにいき、顔を洗い、坐禅をし、お経を挙げ、作務をする、食事をする、作務をする。東に困っている人があれば、行ってその心を聞き、西に手助けが必要な人があれば、行って自分ができることを精一杯やる。

世界中のどこにいたとしても変わらない生活を心がけてきました。

勿論欧州の都市に暮らしていれば、思い通りにはいかないこともたくさんあります。そんなときも皆様の事を想いながら、できるだけ仏の教えに沿った生き方に近づくように。そうして今のところ、生命を保つ事ができています、が、今にして振り返ると全てが奇跡のようにも感じます。

黒田博志老師、いつも笑顔で温かく迎えて下さる善光寺の皆様、育英会の皆様は勿論、応援書を書いて下さった皆様、その間袖触れ合った全てのヒト、モノ、コトに感謝せずにはおれま

せん。

特に、得度式、法戦式、留学僧出願を応援して下さった渡部卓史老師、欧州の禪に最初に触れるきっかけを作って下さった村上光照老師、大路博法老師、推薦書を書いて下さった鈴木包一老師、野田大燈老師、昨年伝法して下さった笹川浩仙老師にも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今、世界は大変困難な状況に直面しています。そんな中でも希望を失わず、日々生きていくのは、本当に、おかげさまでです。

育英会の募集要項にある設立目的に、今でも忘れられない言葉があります。

「檀信徒が食事を一口減らしての淨財喜捨による寺壇一体の報恩行」

そしてもう一つ、忘れられないのが、黒田博志老師を通じて私に響いてきた黒田武志老師の御言葉です。

「人につくして、つくして、つくして……つくすのだ」

このような見返りのないお心を頂きながら、どうして平和な世界を願わずにいられるでしょ

うか。私利私欲に陥ることも多々度々、しかしそんな弱い私でもハッと踏みとどまり、次の歩みを進める事ができるのは、みなさまがいるからです。

縁に従い観に赴き、その場その時にできるだけのことをやる、ただそれだけのその日暮らし、拙僧の駄文で大切な記念誌を汚してしまうのではないか、何度も指がとまりました。しかし皆様への深い感謝、その想いだけでもお伝えしたい（既に日本時間では原稿提出の締め切りも過ぎてしまいました）、その一心で書きました。読んで下さりありがとうございます。

今日も明日も、変わらぬ精進続けて参ります。

いつも本当にありがとうございます。

ここをいい星にしましょう。

祈諸縁吉祥福壽無量

平成二十九年二月二十八日

